



正論大賞を受賞し、日枝久フジサンケイグループ代表（左）から記念のブロンズ彫刻を受けとる渡辺利夫氏 〓 22日午後、東京都港区（大西史朗撮影）

第27回「正論大賞」贈呈式

渡辺利夫氏「日本の指針 訴え続ける」

第27回「正論大賞」（フジサンケイグループ主催）の贈呈式が22日、東京都港区のグランドプリンスホテル高輪で開かれ、大賞を受賞した拓殖大学総長・学長の渡辺利夫氏（72）にブロンズ彫刻「飛翔」（御正進氏制作）と副賞100万円が日枝久フジサンケイグループ代表から贈られた。また、第12回「正論新風賞」を受賞した学習院大学教授の井上寿一氏（55）にブロンズ彫刻「ソナチネ」（小堤良一氏制作）と副賞50万円が豊田皓フジ・メディア・ホールディングス社長から贈られた。

渡辺氏は「ほぞを固めて日本の指針を訴え続けた」と、井上氏は「歴史に学びながら政策を提言してきたい」と受賞の喜びを語った。

正論大賞は「民主主義と自由を守り、発展させる」という「正論路線」の言論

で傑出した学者らに贈られる。アジア経済研究の権威である渡辺氏は、中国の海洋覇権主義への警鐘や日米同盟の強化など、建設的な提言を行ってきたことが評価された。

正論新風賞は21世紀を担う気鋭の言論人を表彰する。歴史政策論を専門とする井上氏は、昭和戦前期の教訓から新しい国家像を模索する試みが評価された。〓 22面に「核心つく言論」